

ID No.	1004
研究課題名	IL-12 発現型がん治療ウイルスを用いた悪性黒色腫のウイルス免疫療法開発
研究代表者	奥山 隆平 (信州大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 古賀 弘志 (信州大学・助教) 松本 和彦 (信州大学・准教授) 五十嵐 隆 (信州大学・教授) 稲生 靖 (東京大学医科学研究所・准教授) 田中 実 (東京大学医科学研究所・特任准教授)
研究報告 日本では今日、国民の3人に1人は癌で死亡する状況であり、新規の治療法の出現が待たれている。T-hIL12は、癌細胞で選択的に複製することで癌細胞を破壊する最新のがん治療用ウイルスである。このがん治療用ウイルスを世界で初めて患者に投与するFirst-in-man臨床試験を実施し、安全性を検討し、臨床上のProof of conceptを取得することを目指している。 そこで、T-hIL12 を用いた医師主導治験を実施するため、信州大学医学部と東京大学医科学研究所の間で意見交換を図りながら準備を進めた。PMDA と相談する際の戦略の立案と資料の作成を進め、事前面談を実施した。さらに PMDA の指摘を踏まえ、プロトコル等に修正を加え、対面助言に進む準備はほぼ完了した。また、がん治療用ウイルスを投与するための院内体制に関して、相談を実施し充実化を進めた。	